

1 研究の概要

■調査研究委員会活動方針

紛争や国内分断といった不安定な国際情勢のもと、将来の予測が困難な現代は、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われており、子どもたちを取り巻く社会環境は年々大きく変化している。学校教育においては、昨年度ようやく年度当初から特段の制限なく教育活動を展開できるようになり、通常の教育活動を取り戻してはきている。しかし、コロナ禍により人々の生活・行動・考え方・価値観などが大きく変化し、今も大きな影響を受けていると言わざるを得ない。

このような状況の下、現行の学習指導要領全面実施から5年が経過し、6年目の今年は次期学習指導要領の方向性についても話題に上がっており、各学校でのカリキュラム設定が重要になり、必要に応じた教育課程編成が求められる時代が迫っている。そして、自ら未来を切り拓く人材を育成するという使命を担う教育の役割や重要性は一層高まっている。学校は変化の激しい社会の未来を見据えながら前進し続け、これから時代を生きていく子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成していかなくてはならない。

また、本県においても「一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくり～子どもが主役の『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」を基本理念とする「福井県教育に関する大綱」が令和6年に改訂されており、ふるさと福井への誇りと愛着をもち、自ら学び考え方行動する力を育む教育が求められている。

そのような中、「GIGAスクール構想」の推進等新しい時代に即応した教育や人権教育や道徳教育の推進等心の教育の充実、質の高い教育活動を実現するための教職員の資質・能力の向上、特別支援教育の充実、教師が子どもたちと向き合う時間の確保など対応すべき重要課題が山積している。県内各小学校において、校長は現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながらリーダーシップを發揮し、確かな計画と実行力をもって学校経営の更なる充実に努めていかなければならない。

本委員会では、今日的な学校教育の課題、学校経営上の諸問題など社会の変化に即応した学校の取組について調査研究し、対策に資することとする。

■調査研究内容

- 1 全国連合小学校長会令和6年度研究紀要より項目を抜粋して調査研究を行う。令和7年度福井県のデータと、令和6年度における福井県のデータならびに全国連合小学校長会「研究紀要」のデータを比較した調査研究を行う。
- 2 会員からの要望による調査項目について、追加して調査研究を行う。
- 3 福井県全体の調査研究をもとに、各都市の課題や諸問題について調査研究を行う。

■調査研究テーマ

「子どもが主役の『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割」

■調査項目

- 1 県民の信託に応える小学校教育の役割と時代の進展に即応する小学校教育の課題
- 2 教員の資質・能力の向上と子どもと向き合う環境づくりに関する課題
- 3 教科担任制やICTを活用した教育の対応等、新たな教育改革・教育施策に関する諸課題
- 4 教育課程の編成や学習評価の改善に関する課題
- 5 管理職の職能に関する課題
- 6 特別支援教育の推進に関する課題
- 7 児童の問題行動などに対する生徒指導推進上の課題
- 8 今日的な課題に即応した学校づくりに関する課題

■調査対象・方法

- 1 調査対象 福井県全小学校 180校 [国立1校・市町立179校]
- 2 調査期間 令和7年6月1日～6月19日
- 3 調査方法 Formsによる回答 [各設問の選択数は、全国連合小学校長会調査と同数]